

道徳性を高めるための総合単元的な道徳学習の展開の工夫
—「5年」水泳単元の学習を通して—



浦添市立神森小学校
伊計 義治

2/-2

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	2
III	研究仮説	2
1	基本仮説	2
2	作業仮説	2
IV	研究内容	2
1	総合单元的な道德学習の意義	2
2	総合单元的な道德学習の構想	2
3	総合单元的な道德学習の手順	2
4	水泳学習カードを道德に生かす	3
5	道德の時間と事前指導, 事後指導	3
6	単元の内容構成	3
V	指導の実際	3
1	総合主題名	3
2	総合主題設定理由	3
3	総合主題の目標	3
4	総合单元的な道德学習の全体構想図	4
5	その他の教科領域との関連	5
6	道德の授業	5
7	水泳単元の授業	10
8	本実践の結果と考察	10
VI	研究の成果と今後の課題	13
1	研究の成果	13
2	今後の課題	14
3	おわりに	14
	*参考・引用文献	14
	*添付資料	15

道徳性を高めるための総合単元的な道徳学習の展開の工夫

―「5年」水泳単元の学習を通して―

浦添市立神森小学校教諭 伊計 義治

【要 約】

この研究は、水泳単元の学習と道徳の時間の学習との関連を図る総合単元的な道徳学習の展開を工夫することで道徳性を高めようとするものである。道徳学習において、体育科における水泳単元の学習を体験の場ととらえ、道徳の時間で道徳的実践力を育成し水泳学習で道徳的実践が行われるように展開を試みた。その結果、道徳的実践力と道徳的実践の指導が相互に響きあい道徳的価値が深められ、子どもが主体的に課題に取り組む道徳性が高められ実践化につながった。

キーワード □総合単元的な道徳学習 □体験的な活動 □意識の連続性 □内面に根ざした道徳性

I テーマ設定の理由

21世紀に生きる心豊かな人間の育成を図って新学習指導要領でも告示され、「生きる力」を育むために、「横断的・総合的な学習の推進」が求められている。さて、道徳教育は、全教育活動を通してなされ、道徳の時間は各教科・特別活動などにおける道徳教育を補充・深化・統合するものとして設定されている。つまり、道徳は本来総合的な学習を基本としている。道徳教育の目標は、人格の基盤としての道徳性を養うことである。「道徳性」は「道徳的心情」や「道徳的判断力」「道徳的実践意欲と態度」という諸側面をもつものでそれは、結局一人一人の判断や行動の基準となるものであるから「道徳性」を育てることによって自分の判断に自信をもつことができ、自分の生き方を見だし、希望をもって生きる能力が育つものと考えられる。

道徳性の育成は、日常の生活においてなされるものであり、児童は、日々の生活の中で様々な体験を通して道徳性を身につけていく。したがって、児童の日々の生活における体験が道徳性の育成の視点からみて偏りなく充実したものであれば、より豊かな道徳性が育成される。

ところで、最近の子どもの成長課題に規範意識のあいまいさや逆境に対する耐性の弱まりが挙げられる。

本学級の道徳性検査の結果によると、子ども達の

多くは自分自身との関わりにおいての勇気・努力、集団・社会との関わりにおいての公德心・規則尊重の面の道徳的心情、判断力はそれぞれ育っていると考えられる。しかし、それが、道徳的実践に結びつかない面がみられる。

浦添市の中学校1年の道徳性検査結果の実態によると、自分自身との関わりにおいて個性伸長は全国平均と比べてプラスを示しているが強い意志や自主自立はマイナスを示す傾向にある。つまり自分をよくしたい、向上したいという気持ちは強いがそれを実現するための努力が不足していると考えられる。また、規範意識においても、マイナスを示している。

この2つの結果から、本学級の子どもの道徳性が内面に根差してなく将来道徳的心情、判断において好ましくない傾向になる可能性がある。本校の道徳教育の重点目標にも規則尊重、勇気・努力の価値項目が取り上げられている。

これらの課題を解決しようと道徳の時間で取り組んだが、期待するほど充分な変容が見られなかった。それは、道徳の時間のねらいとする価値と関連する活動と道徳のねらいとする価値についての子どもの意識が連続するように計画的、発展的に単元を構成することが不十分であったため指導が、道徳の時間その場だけになってしまい価値の意識について連続していなかったのではないかと考えた。

そこで、総合単元的な道徳学習の展開を工夫するこ

とにした。

学校教育全体において、内面に根差した豊かな徳性の育成につながる体験の場と機会を積極的に設けていくことが大切ではないかと考え、今回は、体育科における水泳単元の学習を体験の場ととらえ、道德の時間で道德的実践力を育成し水泳学習で道德的実践が行われるように展開を工夫することで道德的実践力と道德的実践の指導が相互に響きあい道德性が高められるのではないかと考え本主題を設定した。

Ⅱ 研究目標

道德学習において道德性を高めるために水泳単元の学習との関連を図る総合単元的な道德学習の展開を工夫する。

Ⅲ 研究仮説

1 基本仮説

道德学習において水泳単元の学習との関連を図る総合単元的な道德学習の展開を工夫すれば、道德性を高めることができるであろう。

2 作業仮説

仮説1 道德の時間の事前指導、事後指導を重視することにより、ねらいとする価値の意識の連続が図られるであろう。

仮説2 水泳学習に水泳学習カードを活用し毎時間目標設定し反省することにより、道德的価値を意識して主体的に活動し目標を達成しようとする意欲が高まるであろう。

仮説3 教科、単元、領域を、学級活動の時間、水泳、道德の時間、水泳、学級活動の時間の順で内容構成し、水泳学習という体験活動を通す中で道德の時間を設定し展開すれば、道德的価値が内面化し、道德性が高められ実践できるであろう。

Ⅳ 研究内容

1 総合的な道德学習の意義

総合単元的な道德学習は、次のような効果が期待される。

(1) 子ども主体の道德学習を展開できる可能性が

大きい。領域的に広く、時間的に余裕のある枠の中で、子どもが主体的に課題に取り組むことができる。

(2) 教科・領域における道德教育の一層の推進を図ることができる。

(3) 道德的実践力の多面的な育成を図ることができる。

2 総合単元的な道德学習の構想

総合単元的な道德学習を構想する場合には、まず、ねらいに関わる道德性の育成がどのような場で行われるのかを、全体にわたって把握しておかなければならない。その際、次のような点に配慮して全体構想を立てることが必要である。

(1) 学級の道德性の発達の実態（道德性適性検査から）

(2) 学校の教育目標や道德教育の重点目標との関連を図る。

(3) 道德の時間のねらいとする価値から総合単元の目標を設定する。

(4) 道德の時間と各教科、特別活動、他の教科との関連を図る。

(5) 道德的実践力を育成する道德の時間を中核として構成する。

3 総合単元的な道德学習の手順

(1) 学校・学年（学級）の道德重点目標や子どもの実態からくる課題に即して総合主題と目標を設定する。

(2) 道德の年間指導計画から、指導名、ねらい、資料名等を確認するとともにねらいの発展性を再確認する。

(3) 教科、道德、特別活動、他教育活動において関連する学習を選択、配列し、総合単元的な道德学習の指導計画を作成する。

(4) 道德の時間にこれらの教育活動をどう活かしていくか構想し、指導案を作成する。

(5) 道德の時間に、道德的価値の自覚を深める学習を行うことによって、各自の問題意識や課題意識の追求が主体的にできるように、支援する。

(6) 道徳の時間の後に、各自が自己課題とした事柄について、より主体的に追求していける場を設けることによって、その後の学習がより子どもを主体とした道徳学習として発展していくようにする。

4 水泳学習カードを道徳に生かす

水泳学習カードを作成し、毎時間の目標設定や学習の反省ができるようにする。反省項目に道徳的価値を含んだ項目を入れる。水泳学習カードを活用することで毎時間の記録ができる。学習カードを通して、教師は診断し指導できる。(添付資料参照)

5 道徳の時間と事前指導、事後指導

事前指導において、道徳の時間のねらいに含まれる道徳的価値に関する事柄について、教科等認識を広げる。それをふまえて、道徳の時間では、道徳的価値の自覚深めて自らの課題を実践しようとする力(道徳的実践力)を育成し、事後の指導として、教科等に発展させ、実践(行動)の形成を図ることにより、心と行為(実践)の一体化、統合を図る。

6 単元の内容構成

体育科における水泳単元の学習を体験の場ととらえる。学級活動で道徳的価値を自覚し、水泳学習でそのことを体験し、道徳の時間で道徳的価値を深め実践力を育成しする。そして水泳学習をする中で道徳的価値の内面化を図り次への意欲につながり道徳的実践が行われるように単

元構成をする。

V 指導の実際

1 総合主題名

「きまりを守って、自らの目標達成に挑戦する水泳学習」(5年)

2 総合主題設定理由

指導内容4-(2)規則尊重は、他の人とともに生きることであり、人間愛が根底にある。規則やきまりを守らないと集団生活への適応を欠き、人間関係がうまくいかない原因にもなる。1-(2)勇気・努力は、具体的な目標を立て、その実現につとめることの「過程」にこそ生きがいがあるのであり、より高い目標への努力は、さらにそのことを強める。「高きを求める」ことは、自らの貴さを増すことであり、積極的に生きようとするのである。

本学級の児童は、道徳性検査によると規則尊重、勇気・努力の面の道徳的心情、判断力は、育っていると考えられるが道徳性実践に結びつかない面がみられる。

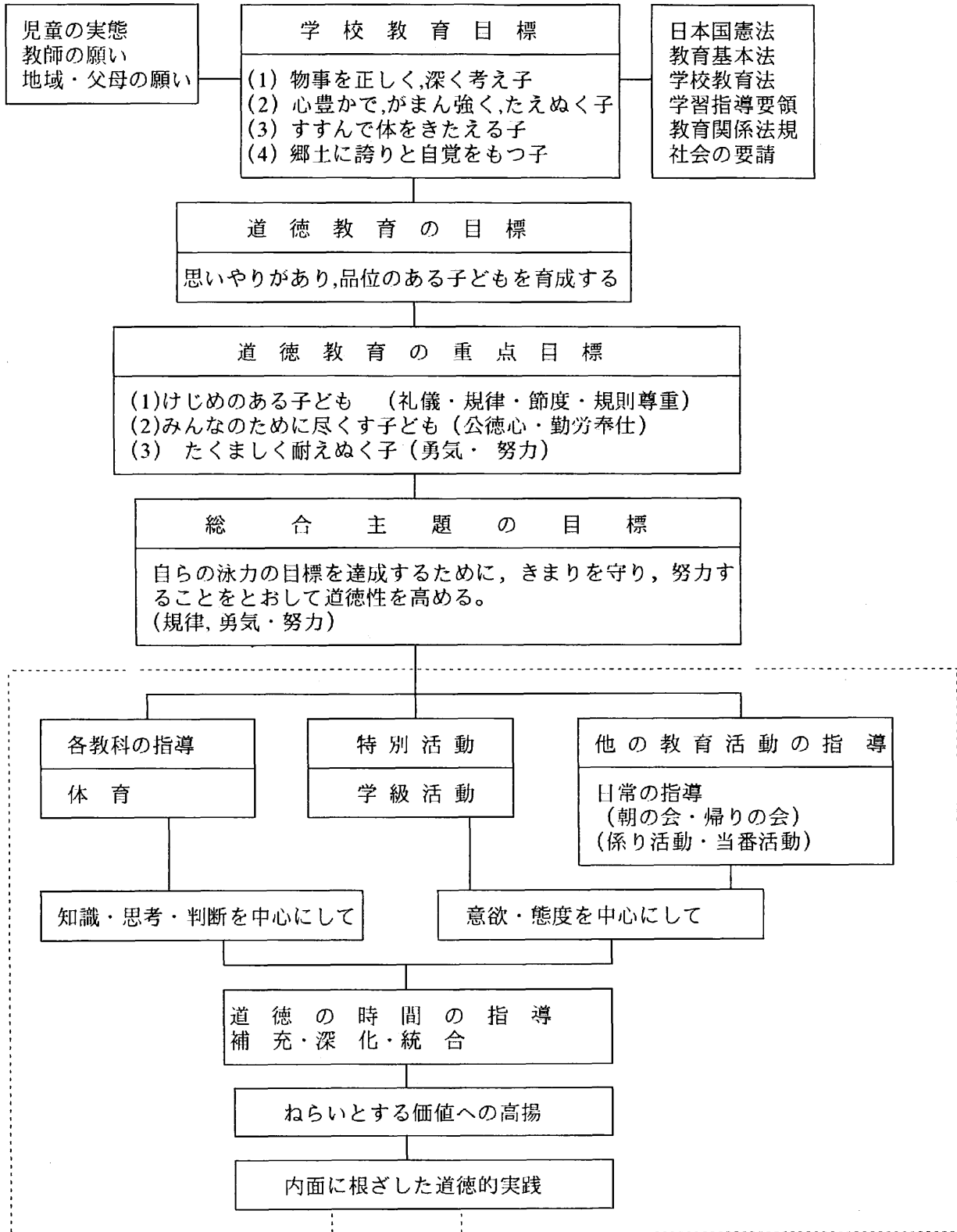
そこで、水泳単元の学習において総合単元的な道徳学習の展開を工夫することで道徳性高まるだろうと考え、本主題を設定した。

3 総合主題の目標

自らの泳力の目標を達成するために、きまりを守り、努力することを通して道徳性を高める。



4 総合単元的な道徳学習の全体構想図



5 その他の教科領域との関連

	教科等	題材・主題名	ね ら い
第1次 事前指導	学級活動 (帰りの会)	水泳学習について	水泳の心得，きまりをまもって安全に水泳をしようとする態度を育てる。また，目標をもって水泳に取り組もうとする態度を育てる。
第2次 事前指導	体育	水泳	水泳の心得，きまりを守って安全に水泳をしたりすることができるようにする。 自己の能力に適した課題をもちクロール及び平泳ぎの技能を身につけて長く泳ぐことができるようにする。
第3次	道徳	通り抜け禁止	規則を尊重しようとする心情を育てる。
第4次	体育	水泳	水泳の心得，きまりを守って安全に水泳をしたりすることができるようにする。 自己の能力に適した課題をもちクロール及び平泳ぎの技能を身につけて長く泳ぐことができるようにする
第5次	道徳	字が書きたい	向上する意欲をもち，学習や仕事に励もうとする心情を育てる。
第6次 事後指導	体育	水泳	水泳の心得，きまりを守って安全に水泳をしたりすることができるようにする。 自己の能力に適した課題をもちクロール及び平泳ぎの技能を身につけて長く泳ぐことができるようにする
第7次 事後指導	学級活動	水泳学習を振り返って	規則を尊重して安全に水泳学習ができたか向上する意欲をもって，水泳学習ができたか振り返る。

6 道徳の授業

6-1

- (1) 主題名 約束や社会のきまりを守る心
- (2) 資料名 「通り抜け禁止」
- (3) 主題設定の理由
 - ① 価値観

規則やきまりは，社会の秩序を守り，人々が円滑に生活していくために必要なものである。規則やきまりを守ることは，社会の一員として最低の条件である。このことによって，われわれの生命や権利などが守られ，また社会が維持され発展していく。

規則やきまりは、個人の生活を束縛するためのものではない。むしろ、年齢、性差、価値観などの異なる様々な人々の集まりにおいて、規則やきまりは、個々の人々が平等に自由に活動できることを保証する機能を果たしている。なお、規則やきまりは絶

対的なものではなく、よりよい社会のために変えていくことができるものである。

② 児童の実態

規則尊重に関する学級の道徳性検査の結果は以下のとおりである。

ひさしぶりに雨が上がり、よい天気になりました。休み時間になると、信男君たちは早く外で遊びたくて、みんな校庭に向かって走りだしました。だれかが、「ろうかを走っちゃいけないんだぞ。先生にしかられるよ。」と言いました。

ア その言葉を聞いたとき、信男君は、どのような気持ちになったでしょうか。

- (ア) こんなときに歩いてなんかいられないよ。 (0)
- (イ) 少しでも早く遊びたいけれど、走るのはやめようかな。 (9)
- (ウ) 走ってはいけないという気もするけれど、走りたくなるなあ。 (5)
- (エ) そうだ、ろうかを走るのはいけないなあ。 (17)

イ 信男君は、走るのをやめて歩きだしました。そのとき、信男君は、どんなことを考えていたでしょうか。

- (カ) 少しは走りたい気もするけれど、やっぱりろうかは歩かなくてはいけないんだ。 (10)
- (キ) そんなきまりを守るのはいけなくて、先生にしかられるのはいやだ。 (1)
- (ク) ろうかはしずかに歩かなくてはいけないんだ。 (9)
- (ケ) 走りたいたい気もするけれど、きまりだから、仕方がない。 (11)

光雄君は、学校の図書館から、みんなも読みたがっている本を、来週の月曜日までの期限で借りてきました。ところが、前日の日曜日の夜になってそのことを思い出しましたが、まだ半分も読んでいません。一度返すと、次に借りるまでにかかり日数がかかりそうです。

ア その時光雄君は、どんな気持ちだったでしょうか。

- (ア) 続けて借り出せるように、明日、係にたのみこんでみようかなあ。 (4)
- (イ) 最後まで読みたいけれど、返さなくてはなあ。 (26)
- (ウ) 係からさいそくされるまで、しばらくだまって借りようかなあ。 (0)
- (エ) 「持ってくるのをわすれた。」と言って、明日まで借りておこうかなあ。 (1)

イ 月曜日の朝、光雄君は本を返すことに決めて、学校へ出かけました。

そのとき、光雄君は、どんなことを考えていたでしょうか。

- (カ) この本を読みたくて待っている人に迷わくをかけてはいけない。 (21)
- (キ) 本を返す日が決められているのだから仕方がない。 (5)
- (ケ) 本の貸し出しの期間をもっと長くすればいいのに。 (4)

児童は、学校や社会には、守らなければならない、規則やきまりがあることは知っている。しかし日常の活動を見ると、安易に規則やきまりを破ることも多い。また、規則やきまりは、自分たちの活動を拘束するものとして反発をもつ場合もある。このように規則やきまりは守らなければならない

ことは知っていても、その意義を理解し実践するまでに至っていないのが実態である。

③ 資料について

友人の忠告も聞かず、自分たちの都合で通行やぶりをしている美奈といずみ。あげくのは社会のきまりまで破り、まねをした下級生は事故にあう。自分自身も親せきの人

におこられたり、誘拐犯かと思うような恐ろしい目にあう。こんな2人の考え方や行動を通して、約束やきまりの意義や、それを守ることの大切さに気づかせていく。身近な話であり、児童が自分のこととして考

えやすい。

(4) ねらい

約束や社会のきまりの意義を理解し、これを守っていこうとする態度を育てる。

(5) 指導過程

過程		学 習 活 動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導 入	価値への方向づけ	1 これまでの学習を振り返って、きまりの大切さを考える。 ・学校や社会のきまりを守れなかった経験を発表する。	・これまで、学校や社会のきまりを守らなかったことはありませんか。そのときどんな気持ちでしたか。	・事実の発表だけでなく気持ちも発表させる。
展 開	把 握	2 資料を読んで話し合う。 ・日直のまさ子さんが通学路破りの注意を聞くいずみさんの気持ちを考える。 ・駐車場のフェンスを飛び越えようとしてまさ子さんに見つかった時のまさ子さんといずみさんの気持ちを考える。 電話をとったいずみさんの気持ちを考える。 自分自身の経験も交えながらいずみさんに手紙を書く。	・日直のまさ子さんが通学路破りの注意をするのを聞きながら、いずみさんはどんなことを考えましたか。 ・頭がかたいんだから ・何か訳があるからよ。 ・駐車場のフェンスを飛びこえようとして見つかった時まさ子さんはどんな気持ちだったと思いますか。 ・どんなことがあっても守らなければいけない。 ・通学路は遠回りで大変この道の方が近道でいい。 ・電話をおいてからもしばらくふるえがとまらなかったいずみさんはどんな気持ちだったと思いますか。 ・自分の経験もいれながらいずみさんに手紙を書いて下さい。	・単にいずみさんへの手紙を書くのではなく、自分の経験を入れることで自己への問いかけをする。
終 末	ま と め	4 教師の話聞く。	・水泳のきまりの話をします。	

(6) 事前指導

- ① 学級活動で、水泳の心得、きまりを守って安全に水泳学習をするための話し合いをする。
- ② 水泳学習で、水泳の心得、きまりを守って

安全に学習できるようにする。

- ③ 水泳学習カードで、安全に気をつけて学習に取り組めたかどうか反省をする。(毎時間)

(7) 事後指導

- ① 道徳の時間で学習したことを生かし安全に水泳学習ができるようにする。
- ② 水泳学習カードで、安全に気をつけて学習に取り組めたかどうか反省をする。(毎時間)
- ③ 水泳単元の学習を振り返っての感想を書く。

6-2 本時の授業

- (1) 主題名 努力の大切さ
- (2) 資料名 「字が書きたい」
- (3) 主題設定の理由

① 価値観

日々の生活をより充実させるのに我々は、常に新しい目標を立て、それに向かって行動しようとする。どんな目標も粘り強い意志とたゆまぬ努力がなければ、達成は不可

康子さんは、体をじょうぶにするためにと、マラソン大会でがんばるために、先週から家の近くを毎朝 30 分ぐらい走っています。でも、今朝はとてもねむいのでねどこの中で、どうしようか迷っています。

ア 康子さんは、今どのような気持ちでいるでしょうか。

- (ア) 今日は休みたいなあ。 (1)
- (イ) 走るのはもうやめたいなあ。 (0)
- (ウ) ここでくじけたくないなあ。 (16)
- (エ) 少しだけでも走ろうかなあ。 (14)

イ 康子さんは、ねむい目をこすりながらも走りました。康子さんは、走りながら、どんなことを考えたでしょうか。

- (カ) 明日からはもうやめにしよう。 (0)
- (キ) マラソン大会までは、走ることにしよう。 (14)
- (ク) 一日ぐらいは休んでもよかった。 (3)
- (ケ) 明日からも、しっかり走ることにしよう。 (14)

道徳的心情の面では、(ア) (-1), (イ) (-2), (ウ) (+2), (エ) (+1) とすると、(ウ)と(エ)で30人となりプラスの道徳的心情は、全体の96, 7%になる。(ア)と(イ)で1人となりマイナスの心情は、全体の3, 3%になる。

道徳的判断の面では、(カ) (-2), (キ) (+1), (ク) (-1), (ケ) (+2) とすると、(キ)と(ケ)で28人となりプラスの道徳的判断は、全体の90, 3%になる。(カ)と(ク)で3人となりマイナスの判断は、全

能である。しかし、一つの山を乗り越えたとき、自信を得、精神的にも成長して、更に高い山を日指して充実した日々を送ろうとする意欲が高まる。

高学年としての自覚をうながすべきこの機に、ものごとに粘り強く取り組み、初志を貫く意志と態度を育てることは、特に大切である。

② 児童の実態

勇気・努力に関する、学級における検査の結果は、以下の通りである。

体の9, 7%になる。この検査からは、子ども達の多くは、勇気・努力の道徳的心情、判断力は育っていると考えられる。

しかし実際には、困難や失敗に直面すると、努力して乗り越えるよりもそこであきらめ、挫折することが多い。それは、「意志の弱さ」「成就体験の乏しさ」のためと考えられる。このような実態から意志を強く持って努力して乗り越えることの大切さを感じ取らせたい。

③ 資料観

資料は、高校、大学と器械体操を続け、中学校の体育の先生になった星野さんが、体育の授業に宙返りをしていたときマットに頭から落ちて手、足など、首から下がぜんぜん動かなくなってしまう。

星野さんは、別の病院に移っていった友人に、励ましの寄せ書きを書きたいと思うようになり、口で字を書く練習をして、今では絵や詩を書き展覧会にも出品するまでになったという実話である。

授業の中で、資料中の星野さんの行動を疑

似体験させることで、その行動がいかに大変であるかを子どもたちに感じ取らせたい。星野さんが実際に絵を描いている様子をビデオで観せて後、星野さんの絵を提示することで子どもたちに努力の大切さを実感させたい。

(4) ねらい

より高い目標を立て、粘り強く目標を達成しようとする意欲を高める。

(5) 指導過程

過程		学 習 活 動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点
導 入	価 値 の 追 求	1 水泳学習で頑張っていることを想起する。	<ul style="list-style-type: none"> みなさんは水泳に頑張っていますが、少しでも4年のときより泳げるようになりましたか。進歩したと思う人。全然かわらないと思う人。 	<ul style="list-style-type: none"> 水泳学習のことを想起させる。
展 開	価 値 の 追 求 把 握	2 資料を読んで話し合う。 (1)・・・のあとの星野さんの気持ちを考える。 (2)星野さんの方法でペンを口に加えて字を書く。 (3)星野さんが絵を描いているビデオを観る。 (4)星野さんが描いた絵を見て思ったことを発表する。 3 今日の授業で勉強したことをこれからの水泳学習にどう生かしていきたいかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> これから、ある人が書いた字を見てもらいます。あなたの書く字と比べて、この字はどうですか。 何歳ぐらいの人の字だと思いますか。 星野さんはどのように思っていたのでしょうか。 星野さんの方法でペンを口に加えて字を書いてみましょう。 この絵を見てどう思いますか。 今日、星野さんの授業で勉強したことをどう生かしていきたいですか。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料1を提示。 資料2を読む。 教師がやってみせる。 その後、児童にさせてみる。 資料3を提示。 ビデオの用意。
ま と め		4 教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 努力の曲線を説明します。 	<ul style="list-style-type: none"> 進歩は努力を積み重ねたときに訪れることを知る

(6) 事前指導

を立てる。

① 学級会で、水泳学習での各自の泳力達成目標

② 水泳学習カードを活用し毎時間泳力目標を設

定する。

③ 水泳学習で続けて長く泳ぐことができるように取り組む。

(7) 事後指導

① 道徳の時間で学習したことを生かし、水泳学習カードを活用し、続けて長く泳ぐことができるように取り組む。

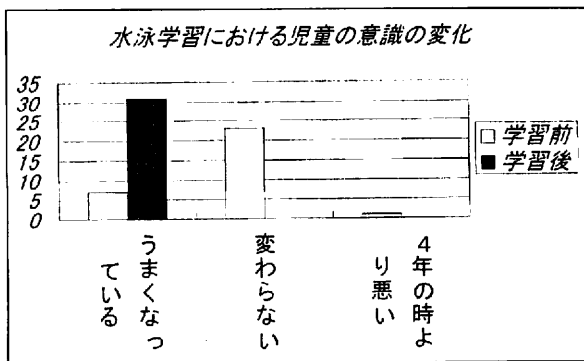
② 水泳単元の学習を振り返っての感想を書く。

(8) 検証授業の反省

- ・星野さんの追体験をしたことで価値の追求を体験的に学んだ。
- ・ねらいとする価値がどの程度情動的に、判断でき、意欲的実践的にとらえることができたか。さらに実践化につながるためには次の水泳の授業が、大きなインパクトになる。
- ・自分の水泳のめあてがある。そのめあてに向かって今日学んだことがら、どのように生かされていくのかということが実は、今日の授業の評価になる。
- ・「星野さんはどう思ったでしょうか。」を「みなさんだったらこのあとどう付け加えるでしょうか。」というふうに子どもが主体的に考えるような発問にしてはどうだったか。
- ・本を紹介するときを開いてサーッとみせただけである。星野さんが描いた大きい絵を張って見せたらもっとインパクトがよかったと思う。

8 本実践の結果と考察

①



6月2日水泳5時間終了後、道徳の時間の学習前、4年の時よりうまくなっていると思う児童は、7人。全然変わらないと思う児童は、24人。4年の時より泳げなくなったと思う児童は1人であった。しかし、6月15日記録会終了後の学習後では、以前よりうまくなっていると思う児童は、31人全員であった。

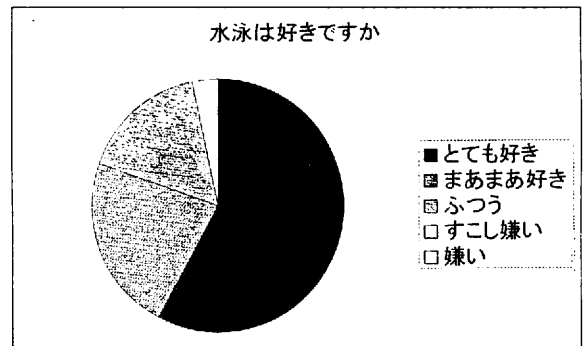
7 水泳単元の授業

(1) ねらい

- ① 自己の能力に適した課題を持ち、クロール及び平泳ぎの技能を身につけ、続けて長く泳ぐことができるようにする。
- ② 互いに協力して水泳をしたり、水泳プールのきまりや水泳の心得を守って安全に水泳をしたりすることができるようにする。
- ③ 自己の能力に適した課題を決め、解決の仕方を工夫することができる。

(2) 児童の実態

アンケートより

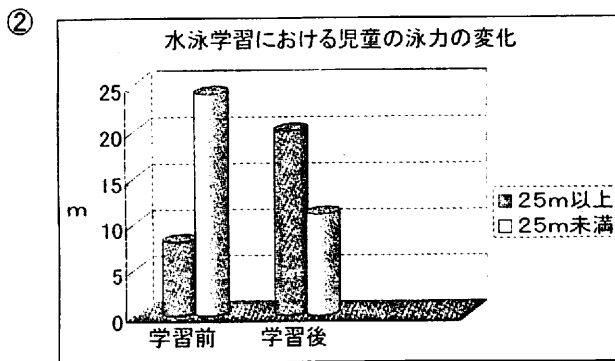


多くの子ども達は、水泳が好きである。

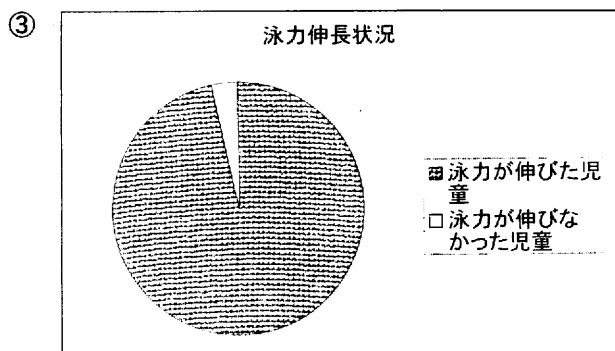
(3) 指導過程(略)

(4) 道徳教育上の配慮事項

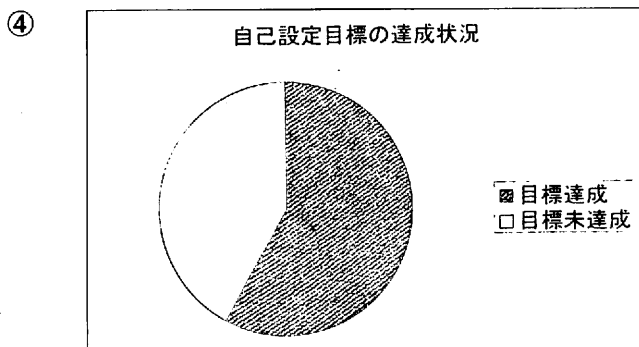
- ① 児童の能力に応じた目標を与え、根気強く練習させ、成功の喜びを味わわせる。
- ② 運動するときのきまりやルールを守らせる。



・教師評価基準25mを達成した児童は、学習前は8人であったが、学習後は20人に増えた。



・泳力が伸びた児童は、30人。泳力が伸びなかった児童は1人であった。



・自己設定目標を達成した児童は、18人であった。

②クロスさせる

③と①を併せて見る。

・泳力を伸ばした児童が30人、変わらない児童が1人である。そして、児童全員が、うまくなっていると思っている。児童に、「練習したらもっとうまくなると思いますか。」と聞くと、全員がそう思うと言う答えであった。全員がやればできるという自信を持つことができたと考えられる。

②と③と④を併せて見る。

・30人の児童が泳力を伸ばし、設定目標を達成した児童が18人になっている。25mを泳げない児童の多くが25mを設定目標として掲げている。学習前に泳力1桁の距離を泳ぐ児童でもそうである。そのため自身の泳力を伸ばしたが、より大きい目標を設定したことで設定目標を達成することができない児童が6人という結果になった。

子どもの感想から

(水泳学習を振り返って)

- ・ぼくは、この水泳のじゅぎょうで自分が思っていたよりもとても上達しました。最初はクロールで10メートルしか泳げませんでした。だけど、次のプールでがんばって息つきをうまくしました。次のプールの時間では、もっともっとながりました。そして、やっとなが38mとすごい記録をだしました。
- ・最初は、25mしか泳げなかったんだけど、もくひょうの50mをたてて、毎日れんしゅうをつみかさねてきたので、クロールのいきつきは、ちゃんと体をひねってできていなかったんだけど毎日れんしゅうをしたので、ちゃんといきつきもできるようになってもくひょうの50mを泳げるようになった。
- ・3年のときや4年のときは、12mぐらいしかおよげなかったけど5年生になって12mから15m、15mから17m、17mから30mおよげるようになりました。6年生になったら200mはおよげるようになりたいです。そのために、海とかに行くときは海でれんしゅうしたいです。
- ・私は6mぐらいしかおよげなかったけど練習をいっぱいして15mおよげました。そして今日、およいで30mおよげました。目標の25mをこしてうれしいです。6年になったら、50mや100mぐらいはおよぎたいと思います。たまには、夏のプールの時は30mをこして40m~45mはおよぎたいです。
- ・水泳する最初は、5mぐらいしかいけなくて25mは、むりじゃないかなあと思っていたら今日は、19mも泳げてとてもびっくりしました。6年生になったら、25mもこしたいと思います。4年の頃は25m泳げたけど、5年の初めてのプールをしたとき17mしか泳げなかったから、びっくりしました。だけど、毎時間水泳をやっていって、どんどん泳げるようになっていました。6月15日に目標は25mだったけど50mを泳ぎました。そのつぎの日に100m泳ぎました。初めて100m泳げたからとてもうれしかったです。6年になったら、100m以上泳げるようにしたいです。
- ・前は、10mしかおよげませんでした。私の目標は25m。でも、目標はたっせいできませんでした。最後になり15m泳ぎました。これから、なんどもクロールを練習して、目標の25mをたっせいしたいです。

(私の振り返りカード)

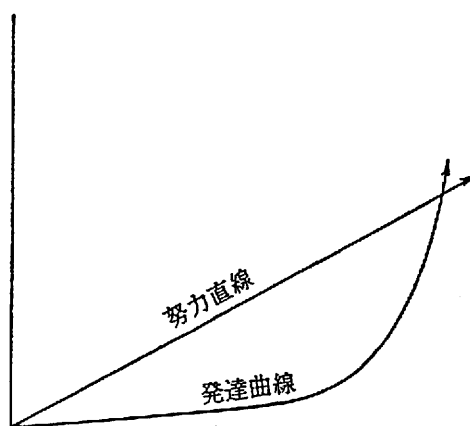
通り抜け禁止、星野さんの通り抜け「字が書きたい」の道徳の授業は、水泳学習にどのように役立ちましたか。

- ・通り抜け禁止の勉強では、きまりやルールを守って行動することを学びました。それからぼくは、プールで安全に気をつけて水泳のじゅぎょうをしています。ぼくは、少しあふない遊びもしていたけれどもうしていません。星野さんの「字が書きたい」では、なんでもがんばれば、練習をつみかさねればなんでもできるということを学びました。
- ・通り抜け禁止はあまりプールの中に入ってふざけたり、先生のいうことをよく聞いてきまりをまもっていこうと思いました。
- ・25mはあきらめようと思ったけど星野さんのビデオを見てあきらめないでおこうと思いました。

- ・わたしは、星野さんみたいに水泳をあきらめないで、25 mを練習して25をこしたので星野さんの「字が書きたい」の道徳の授業をしてとってもよかったと思いました。これからもがんばっていききたいと思います。
- ・がんばればどんなこともできるとわかりました。それと、じぶんの安全は、じぶんでまもるということもわかりました。オレもすいえいでがんばって、30 mおよいだのでそのときはうれしかったです。
- ・どりよくすればなんでもできるということを道徳の星野さんのじゅぎょうでならいました。それをもとにしてぼくは水泳のがくしゅうでどりよくして、33 mをおよげるようになりました。
- ・安全に気をつけてちゃんとじゅぎょうにとりくんだ。あきらめずにがんばった。

努力曲線と発達曲線の話は、水泳学習にどのように役に立ちましたか。

- ・僕は、この話を最初はあまり信じていなかったけど後で心のなかで「やっぱりたいせつなんだ。」と思うようになってきて、その話を信じていっしょうけんめい泳ぎました。すると、38 m泳げました。ぼくは、この話をほかの勉強にもやく立てたいと思います。
- ・ずっとしんじていなかったけど今日およいでわかりました。まえまでは15 mもおよげなかったけど今日およいで15 mおよげて、また35 mもおよげました。ぼくはどりよくすればおよげると思いました。
- ・15 m何回かがんばって泳いでいたらきゅうに25 mができた。
- ・25 m泳げなくても努力をするといっきにできるようになった。



- ・道徳の時間で学習したことが水泳学習に役立ち、安全について考え、きまりを守って取り組んでいこうという気持ちになっていることがわかる。また、自己の泳力の目標を立て、あきらめないで努力していこうという気持ちを持ち続けて取り組んだことで、泳力が向上し、目標達成した児童も多くでた。そして、新たな目標を立てて頑張っていこうという気持ちになっていることがわかる。また、目標達成できなかった児童においても、これからも頑張っていこうという気持ちが継続していることがわかる。

VI 研究成果と今後の課題

1 研究の成果

道徳学習において水泳単元の学習との関連を図る総合単元的な道徳学習の展開を工夫すること

で、水泳単元の学習を体験の場ととらえ、道徳の時間で道徳の時間で道徳的実践力を育成し、水泳学習道徳的実践が行われたことで、道徳的

実践と道徳的実践の指導が相互に響きあい道徳性が高められた。

(仮説1について)

道徳の時間の事前指導で、学級活動で水泳の心得、きまりを守って安全に水泳学習をするための話し合いをしたり、各自の泳力達成目標を立てさせた。また、水泳学習カードを活用し安全に気をつけて学習に取り組めたかどうか毎時間反省をさせたり、毎時間泳力目標を設定させた。事後指導において、道徳の時間で学習したことを水泳学習に生かすよう声かけをしたり、水泳単元の学習を振り返っての感想を書かせた。

そうすることで、ねらいとする価値の意識の連続が図られた。

(仮説2について)

水泳学習に水泳学習カードを活用し安全に気をつけて学習に取り組めたかどうか反省をし、泳力においては、毎時間目標設定することにより主体的に活動し目標を達成しようとする意欲が高められた。

(仮説3について)

学級活動の時間、水泳、道徳の時間、水泳、学級活動の時間という単元構成で展開したことで、水泳の体験をして道徳の時間で道徳的価値が深

められ内面化し、その後の水泳学習において各自の自己課題に主体的に追求していこうという姿勢がみられ、泳力が向上した。

2 今後の課題

- (1) 他教科や他領域、体験的活動との関連を図った総合単元的な道徳学習の展開。
- (2) 道徳の時間の指導の工夫。

3 おわりに

この6ヶ月間有意義な時間を経験させて頂き、大変有り難うございました。読書をしたり、パソコンを活用したりしたことを今後の教育実践に役立てたいと思います。

最後に、研究を進めるに当たり、暖かく指導して下さった新城所長、池田係長、与古田主事、他職員の皆様に心から感謝申し上げます。

そして、半年間にも及ぶ研究のチャンスを与え支援してくださいました前校長先生の豊里校長先生、比嘉校長先生をはじめとする神森小学校の諸先生方市教育委員会の先生方及び関係者の皆様、並びに同期研究員の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

※ 参考・引用文献

「実践 クロスカリキュラム」	高階玲治編	図書文化
「小学校指導書 道徳編」		文部省
「心を育てる道徳教育の推進」	「監修」坂本昇一	教育開発研究所
「総合単元的道徳学習の実践」	笹田博之・編著	明治図書
「5年生の道徳」		文溪堂
「子どもが本気になる道徳授業12選」	深澤 久編著	明治図書
「オリジナル読み物資料と指導案」	大野哲郎編著	明治図書
「教研式HUMAN道徳性検査小学3・4年、5・6年用」		図書文化
「子供を動かす法則と応用」	向山洋一著	明治図書
「小学校 学校における道徳教育」		文部省
「小学校 道徳教育指導上の諸問題」		文部省
「道徳性検査結果について」		浦添市立教育研究所

*添付資料

今日の学習の反省

名前 ()

自分の学習の反省を書き残しておきましょう

今日は、()月()日、水泳の学習()時間目

項目	評価	番号に○を付けよう				
		悪い	1	2	3	4
今日のめあて 平泳ぎ、クロールの線習表を見て書こう) 書き方の例 クロール段階1						
今日のめあては達成できましたか		1	2	3	4	
楽しく水泳学習ができましたか		1	2	3	4	
協力して水泳の学習に取り組めましたか		1	2	3	4	
せいっぱい学習に取り組めましたか		1	2	3	4	
安全に気をつけて学習に取り組めましたか		1	2	3	4	
今日、上達しましたか		1	2	3	4	

水泳学習終えての感想、または今日の学習で発見したこと

--